

## 平成27年度第6回江東区外部評価委員会

1 日 時 平成28年3月14日(月)  
午後 7時 00分 開会 午後 8時 5分 閉会

2 場 所 江東区役所 7階 72会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

吉 武 博 通	塚 本 壽 雄
植 田 みどり	藤 枝 聡
布 施 伸 枝	宮 澤 正 泰

#### (2) 事務局

政策経営部長	押 田 文 子
経営政策部企画課長	武 田 正 孝
政策経営部財政課長	武 越 信 昭
政策経営部計画推進担当課長(行政管理担当課長兼務)	宮 尾 英 志

4 傍聴者数 なし

### 5 会議次第

1. 開会

2. 議題

- (1)「江東区長期計画の展開2016」の策定について
- (2)平成28年度外部評価委員会スケジュール(案)について
- (3)その他

3. 閉会

## 6 配付資料

- ・資料1 江東区長期計画の展開2016（案）
- ・資料2 平成28年度当初予算における行政評価結果反映事業
- ・資料3 当初予算における各施策の行政評価結果反映状況
- ・資料4 平成28年度行政評価スケジュール（案）
- ・参考 平成28年度江東区予算（案）概要（平成28年2月）

午後 7時 00分 開会

○事務局 それでは皆さんおそろいになりましたので、よろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、第6回の江東区外部評価委員会を開会したいと思います。年度末のお忙しいところに、また、足場の悪いところでご出席いただきましたことを感謝申し上げます。

今日は全員出席ということでございますし、傍聴者はいらっしゃらないということでございます。

初めにお手元の資料の確認をお願いしたいと思います。席上にごございます会議次第に配付資料の記載がございますので、ご確認いただきまして、不足があれば、事務局にお知らせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って委員会を進めたいと思います。

まず、議題(1)「江東区長期計画の展開2016」の策定について、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局 それでは、少々お時間をいただきまして、ご説明をさせていただきます。

昨年8月、当委員会の評価結果報告書を頂戴いたしました。区では、その外部評価結果を踏まえまして、区の最終評価であります二次評価を予算要求に合わせて9月に行いまして、各部に評価結果を通知したところでございます。

評価結果につきましては、可能な限り予算への反映を図ることとしてございます。

本日、資料1としてお配りしてございますけれども「江東区長期計画の展開2016(案)」は、評価結果を踏まえたところでの、当初予算における新たな取り組みや事業の見直しなど、長期計画の視点から平成28年度当初予算(案)の内容を取りまとめたものとなっております。

本日は資料1を中心に、区の最終評価であります二次評価や、評価結果に基づく新たな取り組みや、事業の見直しの主な内容について、ご説明をさせていただきます。

それでは、恐れ入ります、資料1をごらんいただきたいと思います。表紙をおめくりいただきますと区長の挨拶がございまして、その次のページが目次となっているところでございます。

まず、本冊子の構成でございますけれども、第2章におきまして、長期計画(後期)の計画期間における財政計画をお示ししてございます。

第3章では、本区の2つの重要課題と7つの重点プロジェクトの取り組み状況等をお示

ししてございます。

また、第4章では、特に重点的に取り組むべき事業として位置づけられた主要事業の計画期間における年次計画や事業費等についてお示ししてございます。

第5章では、平成28年度当初予算における新たな取り組みを、第6章では、外部評価を含む各施策の行政評価結果や当初予算における事業の見直し等についてお示ししてございます。本日は、こちらの第6章を中心にご説明させていただきます。

なお、国から策定が要請されてございます地方版総合戦略に当たります「地方創生における子育て支援策」を最後のところに掲載しておるところでございます。

それでは、行政評価結果等につきまして主な内容をご説明させていただきます。恐れ入ります、98ページをごらんいただきたいと思います。

98ページは施策1「水辺と緑のネットワークづくり」でございます。こちらにつきましては、今年度、外部評価対象施策として、塚本副委員長を班長とするB班でご評価いただいた施策となっております。本施策では、水辺に親しめる散歩道や公園の整備、維持管理のほか、区民や事業者と協力した水辺と緑の維持管理などに取り組むとしてございます。

こちらの99ページ、右側でございますけれども、一次評価（主管部長より評価）というのが99ページの6にございます。そこの中の右下の(3)今後5年間の施策の取り組みの方向性におきまして、最初の1番目の四角でございますけれども、「公園や水辺・潮風の散歩道の整備を着実に進め、水辺のネットワーク化を推進するとともに、公園の運営・維持管理については、質の向上と支出の縮減を図るため、区民・事業者・区で連携するなど、様々な手法を検討していく」、また、下から4行目の後半のほうでございますけれども、「区が積極的に区民に働きかけ、みどりにふれあう機会や場を数多く用意する」などの方向性が示されたところでございます。

これらの一次評価と関係部課長とのヒアリングを踏まえまして、外部評価委員の先生方の評価としましては、次の100ページをごらんいただければと思います。こちらが外部評価の結果となっているところでございます。

一部ご紹介させていただきますと、まず、④、下のほうでございますが、施策の総合評価におきましては、委員の力の方の3行目の後半部分ですが、「事業関連予算の大部分を占める公園維持管理に関しては施設数が増加することにより、維持管理コストの増大が予想される。事業実施にあたりライフサイクルコストを縮減する観点から、日常的な点検や計画的な改修の実施、管理業務の外部委託が可能な部分についての検討を今後も継続する

必要がある」とのご評価をいただいたところでございます。

また、1つ上の③の区民との協働、国・都・民間団体等との役割分担におきましては、委員のオの方の部分でございますが1行目、「この施策のソフト面の課題全般について、より区民との協働を具体的に実現されたい。また、ボランティアとの協働・関係形成についても、現状のように取組別にとどまることなく、総合的・横断的な関係を構築することを期待したい。ボランティア活動という性格上、区が何でも先導すればよいというものではないが、区の適正なイニシアティブに期待する」との評価をいただいたところでございます。

区では頂戴いたしました外部評価を踏まえまして、次の101ページのところでございますが、区の最終評価であります二次評価を行ったものでございます。この二次評価のうち、太字で表記されているものが外部評価結果を反映したものとなっております。

具体的には、3つ目のところですが、「施設の整備・改修に当たっては、企画、設計、工事、改修、修繕、維持管理にわたるライフサイクルコストを十分検討し、コストの縮減に取り組むとともに、区民へ施設の整備・改修状況等の情報を効果的に提供する手法を検討する」、また、最後の部分でございますが、「水と緑に関するボランティアの取り組みなど、さらに区民との協働を進め、区民が水辺や緑に親しむ機会づくりに取り組む」など、区として最終評価を行ったものでございます。

区では、これらの評価を踏まえて予算編成を行い、全ての評価結果を翌年度予算案へ反映できるものではございませんけれども、直ちに反映できるものにつきましては、可能な限り反映を行ったところでございます。

その結果でございますが、少々飛びまして恐縮ですが、234ページをお開きいただきたいと思います。こちらは、27年度の行政評価の結果を受けまして、28年度当初予算において各事業の見直しを行った主な事業を掲載してございますが、これらの中の1つ目の項目、「公園維持管理事業」は、先ほどの外部評価並びに二次評価で示されました「維持管理コストの縮減」の一環として、区立公園2園におきまして、指定管理者制度を導入するという見直しを行ったものでございます。こうした反映を行っているところでございます。

次に、恐れ入りますが112ページをお願いいたします。112ページは施策6、保育サービスの充実という部分でございます。こちらの施策6につきましては、吉武委員長を班長といたしますA班でご評価をいただいたところとなっております。

本施策では、地域需要に応じた保育所の整備や保育の質の維持・向上に取り組むほか、

家庭環境等に応じた多様な保育サービスの提供などに取り組むとしてございます。

こちら113ページのところにおきまして、右下でございますが、(3)今後5年間の施策の取り組みの方向性の1行目、真ん中部分ですが、「今後も保育施設に対する需要は増加していくものと思われる。引き続き、待機児童の地域状況を勘案し、様々な手法で認可保育所を効果的に整備し、長期計画の後期間中に待機児童の解消を目指す」、また、4つ目の四角のところでございますけれども、「江東区こども・子育て支援事業計画を基に、保育施設を適正に整備していくと同時に、指導監督を実施し、保育の質の維持・向上を図る」などの方向を示したところでございます。

こちらにつきまして、外部評価といたしましては、次の114ページに記載をしておりますけれども、こちら下のところ、④施策の総合評価におきまして、委員のAの方の部分でございますが、「全国的にも例を見ない保育需要の急増に、質と量の両面で区民ニーズに沿った対応を行おうとしている点で高く評価したい」、またイの委員の2行目、「成果を区民にわかるように伝えていくことやコスト面での試算、成果の継続的な検証を着実にしながら、今後も推進することを期待したい」との評価を頂戴したところでございます。

また、一つの上の③区民との協働、国・都・民間団体等との役割分担におきましては、委員のイの方の部分でございますけれども、「将来的なコストを考えると民営化という方向性での方針は評価できる」との評価を頂戴したところでございます。

こうしたことに基づきまして、次の115ページに区の最終評価でございます二次評価を載せてございますけれども、具体的には1番目、「保育施設について、今後の需要動向に対応した適正な整備を図るとともに、利用者一人当たりの区の財政負担を明らかにするなど、関係者間でのコスト意識の共有化を図る」、また3つ目のところですが、「民間活力の積極的な活用を図り、マネジメント機能をさらに高める意識を持って、サービスの質の向上に向けた事業者支援・指導等に取り組む」などの評価を行ったところでございます。

これらを踏まえまして、少し飛びますが、234ページをお願いいたします。

こちら主な事業の見直しでございますが、下から2つ目の部分の保育所管理運営事業におきまして、外部評価、二次評価で示されました、コスト削減の一環といたしまして、区立保育園1園の民営化を行うこととしているところでございます。こうした形で反映を行ったところでございます。

いろいろ飛んで恐縮でございますが、続きまして、170ページをお願いいたします。施策25、総合的な福祉の推進でございます。

こちらにつきましても、172ページで、外部評価の先生方の評価をいただいているところでございますが、②区民ニーズ・社会状況に対応した取り組みの展開におきまして、委員の方でございますが、「高齢者の増加、医療費の増加の中で、生活支援、「在宅型」の介護が重視されるようになってきている。このような状況の中で、高齢者を積極的にコミュニティに参加できるようにし、予防型の仕組みを確立する必要がある」との評価をいただいたところでございます。

次の173ページに区最終評価でございます二次評価でございますが、2つ目、「各種福祉サービスについて、区民ニーズの把握に努め、区民や民間団体との役割分担を明確にした上で、共助の仕組み、仕掛けづくりに取り組む」などの評価を行ったところでございます。

こうした評価を踏まえまして、こちらにもまた飛んで恐縮でございます、86ページをお願いいたします。

86ページでございますが、こちらは長期計画に定める各施策の目標を達成するため、平成28年度当初予算において、新たに取り組む主な事業を掲載したところでございますが、こちらの1つ目の項目、介護保険会計における「介護予防普及啓発事業」におきまして、外部評価、二次評価で示されました介護予防の視点から、スポーツクラブの個人利用に対する支援及び介護予防プログラムの公募を行うとしたところでございます。

ただいまご説明しましたように、28年度当初予算で評価結果を反映させた事業につきましては、そのほかにもございますけれども、こちらにつきましても、大変恐縮ですが、資料2のほうでまとめてございます。資料2は「平成28年度当初予算における行政評価結果反映事業」ということで、行政評価を反映した一覧を整理しているところでございます。

ちょっと細かくて恐縮でございますけれども、表の見方としましては、行政評価結果を反映させた事業を施策順に掲載しているところでございます。また、外部評価対象の施策につきましては、網掛けで示しているところでございます。

なお、こちらの資料につきましては、今年度の行政評価結果を反映した事業のみを掲載しておりまして、その他の視点からの見直しや新たな取り組みとなったものについては反映してございませんので、その点、ご留意いただければと思います。

資料の見方でございますけれども、左から3列目の「事業名」がございまして、その隣の「長期計画の展開2016」の欄では、先ほど資料1でご説明いたしました、「長期計画の展開2016」の中におけます「新たな取り組み」ですとか、「事業の見直し」に掲載され

ているものにつきましては、丸を付してございます。

また、その隣の列は取り組みの内容および影響額を示しているところでございます。

さらにその右側でございますが、「取り組み・見直しに反映した評価」の欄には、関連いたします「外部評価」ですとか「二次評価」の内容を記載してございます。

さらに右側、「見直し・廃止」の欄につきましては、二次評価結果の通知と合わせ、企画課および財政課、各所管に提案をいたしました事業の見直しですとか廃止の対象の場合につきましては、その部分で記載をしているところでございます。いわゆるこちらのほうから見直してはどうですかと投げかけた部分についてはこちらのほうで示したところでございます。

一番最後の列の最後の「予算（案）概要」の欄につきましては、本日お手元にお配りをしてございます「予算（案）概要」という、参考というこちらの資料でございますけれども、こちらの中で事業の見直しですとか廃止と記載したものについて書いているところがございます。この予算案概要の中でどういうふうに位置づけられるかということで整理をしたところがございます。

なお、恐れ入ります、先ほどの資料2の最後のページ、9ページをごらんいただきたいと思っております。左の1列目の番号の欄でございますけれども、平成28年度では、一つの事業の中で複数の見直し項目を行った場合も1事業としてカウントしてございますので、合計では、左下でございますけれども、54事業が評価結果を反映した事業数となっております。

また、下の表でございますけれども、影響額といたしましては、新たな取り組みの部分で、28年度のところですが、35億円余、事業の見直しのところで2億円余が影響があったというところがございますので、影響額の合計といたしましては38億円余の影響があったということで、こうした形で行政評価を反映したという形となっております。

いろいろ飛んで申しわけございません。次に、資料3をお願いいたします。こちら、資料3、当初予算における各施策の行政評価結果反映状況でございます。

こちらは、施策ごとの行政評価結果の反映状況をまとめたものでございまして、1ページには事業数、裏面の2ページに影響額を記載しているところがございます。

1ページ目の下段、下から2行目でございますが、合計の欄をごらんいただきますと、28年度は新規事業や廃止となった事業を含めまして、合計で949事業でございます。そのうち、いわゆる行政評価を反映したものにつきましては、その隣の欄にございますけれども、54

事業でございまして、全体に占める割合は5.7%という形になってございます。

なお、反映事業数の欄の括弧内の数字につきましては、外部評価結果を反映した事業数となつてございますので、28年度につきましては9事業という形で、外部評価結果を反映したものとなつてございます。

裏面の2ページをごらんいただきますと、合計欄のところでございますけれども、28年度の当初予算額は、一番下のところでございますが、国民健康保険会計などの特別会計も含めると、全体で2,897億円余となつてございます。その隣の外部評価結果を反映した事業の影響額は、先ほど申し上げましたとおり、38億円余ということで、全体の1.3%というような形となつてございます。

行政評価の内容、それを受けました28年度当初予算の内容につきましては、以上でございますけれども、引き続き、外部評価を含む行政評価システムの活用によりまして、効果的・効率的な行財政運営に努めてまいりたいと存じます。

長くなりましたが、私からの説明は、以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

本件について、何かご質問ございますでしょうか。どうぞ。

○委員 どうも大変ご苦勞さまでございました。評価のシステムの中でPDCAを外部にも見えるということ、当然、内部が重要ですけども、外部も意識されてこのようにたくさん資料をおつくりになったと受けとめました。

基本的というか、初歩的なことですが、この資料1というのは、これは毎年おつくりになるものですか。

○事務局 はい、そうです。これは毎年つくって、いわゆる2016年度における計画の全体像、行政評価も含めますけれども、2016年度版の計画という形となつてございます。

○委員 読まれる対象は議員の皆さん？

○事務局 当然、議員の方にも全員お配りしますし、あと、一般にも公開をしてみたいです。あとは販売もします。

○委員 販売までする？

○事務局 はい。

○委員 ウェブサイトにも載るんですか。

○事務局 載ります。

○委員 よくわかりました。

- 委員 いつ公開されるんでしょうか。
- 事務局 まだ議会中でございますので、4月に入ってから公開という形です。
- 委員長 はい、わかりました。じゃあ、先生。
- 委員 もう一つです。先ほど、公園の指定管理者と、それから小名木川保育園の民営化で、影響額が出ているんですけど、これは人件費の減になるのでしょうか。細かい話ですけども、さっきの集計表だと人件費が全くゼロなので、人件費関係ないかな、じゃあ、何だろうと。
- 事務局 業務委託を指定管理にすることによる経費削減効果額を影響額としています。
- 委員 わかりました。
- 委員長 そのほか、いかがでしょうか。
- 委員 これ済みません、外部評価の結果が、資料3を見ると、26年、27年、28年ということで、反映事業数、全部で949、大体、3年間、ほとんど950件ぐらいですけども、その中で反映事業数が28年度は外部評価が9で、ちょっと寂しい感じが、通常の半分ぐらいになっちゃうんですけど、これは何か特に意図があるんでしょうか。全体的に見ていくと、もちろん外部評価をしているやつというのは全部ではありませんけど、これはどういうふうに見ていけばいいでしょうか。たまたま今回はやっているものが網掛けのところだけなので9件で、じゃあ、27年度のところは19件とかいうのは、どういう感じなのですか。
- 事務局 対象が少ないのもございますよね。
- 委員 お休みしていましたよね。
- 事務局 26年度、お休みしておまして、施策自体が2年で一巡だったので。
- 事務局 この場合ですね、例えば、26年度に見直したようなものも含めてです。  
26年度はそもそも外部評価をやっておりませんので、25年度なりでやったものについても、要するに、累積じゃないんですけども、26年度も反映されたということでやっておりました。
- 委員 反映されたということですね。27年度の予算に反映されていますと、その前の外部評価が。だから19件だということ。累積的になっているということですね。
- 事務局 そういうことです。
- 委員 しかも、28年度はこの網掛けのところだけしか、3分の1しかやっていないから、だから件数が少ないということですね。
- 事務局 はい。

- 委員 一方で、その54件というのは、基本的には内部でやっているのは、34施策全部やることになるんですね。
- 事務局 これはそうですね。外部評価に限らず、二次評価を行ったもので反映したものが全体で54事業ありましたということになっていますので。
- 委員 ここで施策番号が34とありますね。これは、だから、34、全部で949事業があつて、それについては基本的には内部の評価を全部やっているということですか。
- 事務局 評価自体は全部、全事業やっているんですけども、それを次の28年度予算に反映できたものが54事業。
- 委員 外部の評価は網掛けのところしかやっていないと。
- 事務局 そうです。
- 委員 だから、この54と9というのはそもそもレベルが違うわけですね。外部評価のほうはそのうちの3分の1しかやっていない。
- 事務局 そういうことです。
- 委員 内部でやっているものは、まさに34の949事業は全部やっているということになるわけですね。
- 事務局 そうです。簡単に言うと、949分の54と、それから外部評価でやっていた事業数分の9ということです。
- 委員 だから、単純に言えば、別に、僕らがひねくれるわけじゃないんですけど、3倍すれば3・9、27ですよ、我々の場合、もしそういうふうになれば、54と27ぐらいのオーダーで比較すればいいということですか。
- 事務局 そうですね。
- 委員 だけど、やっぱり、そうすると、外部評価のやつよりも、内部の評価のほうが、予算とかにきいてきているという感じがするのは、ひがみ根性とかそんなのじゃないんですよ。それはやっぱり…。
- 事務局 ただ、一つは、今回1年目であったということはありません。当然、数が限られているということが大前提としてあるのかなと、いわゆる累積ではない部分が大きいんだと思うんですね。
- それから、あと、やはりどうしても行政評価、外部評価の対象以外の部分でも全部一応見ますので、そういった意味ではより反映しやすくなっていくというところはあるのかなと思うんですけども。

○委員 より精緻に内部の事務方のほうで見ているから、外部より反映しやすいということかもしれませんね。

○事務局 そうですね。

○委員 だからこれからの課題として、せつかく外部評価をしているわけだから、外部評価がより予算とかそういったものに、そのとおりにやってくださいというわけじゃないんだけど、もう少しインパクトがあると外部評価のやりがいもあるかもしれないし、外部評価をする意味というのものもあるかもしれないというところかもしれませんね。

○事務局 はい。

○委員 わかりました。

○委員長 それ以外から、先生方、ぜひご質問どうぞ。

○委員 今日、これを説明していただいているのは、つまり、去年、こういう評価をこのメンバーにしてもらったけれども、それはちゃんとこういう形でもってPDCAで、我々がやったのはチェックですけれども、まさに次の予算にアクションとしてつながっていますよ。

○事務局 そういうことです。

○委員 だから、まさにそこで評価のための評価で終わっていませんと、こういうことですな。

○事務局 はい。28年度予算案が固まりましたので、行政評価、外部評価だけではないですけど、外部評価も含めた上での行政評価結果が決まって、その反映で予算がこうなりましたと、こういうふうに反映されましたということのご報告。

○委員 ということですね。はい、わかりました。

○委員長 いかがでしょうか。何か、ぜひ。どうぞ。

○委員 資料3の2ページ目のほうで、今の影響額の話と関係するんですけども、素朴な質問というか印象なんですけど、各年度で一番右側に施策ごとの影響額割合というのが出てくるんですけども、これを見て、確かに全体では割合として、28年度であれば1.3%、前であれば1.4、0.9という感じなんですけど、これ、施策ごとに見ていくと、6番の保育サービスの充実のところは、27は累積だという話だったんですけども、各年度とも10%以上、あるいは10%前後というのは何がしか影響が及んでいるというように見えるんですけども。

施策ごとに、ちょっとこういう言い方が適切かどうかわからないんですけど、外部評価、

あるいは評価というものを取り入れていく、いきやすいというか、いくような傾向があるような施策というものがタイプとしてあったりするのかなという印象が、ちょっと数字からは見えません。

○事務局　そうです。まさにおっしゃるとおりでして、例えば、本区の場合で言いますと、保育園の整備は非常に喫緊の課題になっているだけに、それだけに、例えば、先ほどの指定管理者なり、保育園の整備に充てる予算というのは非常に大きくなっていますので、そういった意味で、影響額はやはり出やすいのかなと思ってございます。

○委員　済みません、こちらの影響額が、これ、プラスになっている部分と、逆に指定管理になってマイナスになる部分が、これはネットされるわけではなくて、両方ともプラス、プラスでカウントされている？

○事務局　そうです。先ほど、恐れ入ります、資料2の一番最後の9ページのところに、いわゆる影響額の出し方みたいなのはこちらに載っていますけれども、いわゆる新たなということで整備した額、増えた部分と、それから削った部分とを純粋に足して、今年で言いますと38億円余となっています。

○委員　評価を得て、もっとこれは追加してやらなきゃいけないとか、もっと充実してやっていかなきゃいけないというのが、例えば、35億9,000万ぐらいあって、ここはもっと効率化できるねというのが2億3,000万ぐらいだと。それをそれぞれ絶対値を足し算して、38億円の影響額だ、こういう理解ですね。

○事務局　そうです。

○委員　確かにそれはそうなんだけれども、プラス、片や、予算としては増になり、片や、予算としてはマイナスになりということで、それでやって増えていくというのは、それがほんとうにいいのかどうかということも、何かほんとうだったら、組みかえるべきとか、絶対、財政的に余裕があれば別ですけども、もちろん、評価はしなきゃいけないんだけど、この分は評価するけれども、ここはじゃあその分だけ、圧縮していかなきゃいけないねとかいう、そういうのというのはどうなんでしょう。

今回の評価、去年の評価をやってみて、一つずつ項目評価するじゃないですか。ほんとうは、問題は、そこで全体の34施策なら34施策とか、949の事業とかをどういうふうに組みかえて、優先順位をつけていくかというのはもう一つ大きなテーマですね。

ところが我々の場合は3分の1だけ进行评估して、しかも項目ごとに半分分かれてやるということになりますから、結果的にはその組みかえみたいなものというのは、区側がそ

うせざるを得ない。だけど、我々としては「これ、もっと評価しなさい」ということだけ言っているわけではなくて、「もっと効率化できるよね」という話をしている。その結果が、何となく増えちゃったと。総額でね。

それが財政的にゆとりがあって、江東区として潤沢で、むしろここはもう思い切って投資をしていくんだという意味であればそうなんだけど、もしほんとうは財政的にもまだまだ厳しいというのであれば、ほんとうはそういう組み替えをするというときに、この評価を使っていただくというのが一つの方策かなという気はするんだけど。

○事務局 おっしゃるように、いわゆる施策単位では評価をいただいておりますので、そうすると、施策の中では完結するわけですけど、いわゆる施策の一つの政策レベルではまだ、まさにメリハリをつけるという部分の議論はしていないので、そこは。

あと一つ難しいのは、3分の1ずつやっているという手前があるので、なかなかその全体像を一遍に1年でちょっとはかりきれないというのは一つ、少し難しい部分があるのかなと思うんです。

あともう一つ、財政全体からすると、今、まだ、人口が増えて、右肩上がりになって上がっているんで、例えば、ある程度、頭打ちになって、この中でやりくりしなさいよという話しならば、当然、そういう議論も踏まえなきゃいけないかなと思うんですけど、ちょっと右肩上がりになっている部分という意味では、ちょっとその議論がまだ弱いのかなという感じはいたします。

○委員 でも、その辺が課題ですね。

○事務局 はい。

○委員長 いかがですか。ちょっとそういういったこと。どうぞ。

○委員 資料を見させていただいて、非常によくできているというか、感心している部分ではあるんですけども、特に、こういったものが毎年つくられるので、これは大変な努力だなと思っています。

最終的に、PDCAサイクルを予算に反映させるというのが非常に難しい部分であると認識しているんですけども、こちらのほうで、今回、この予算案概要というのをつけていただいておりますので、中に主な事業の見直しという項目等がありますので、この部分の見直しをされた部分の幾つかは外部評価のものを踏まえているということであれば。

例えば、予算案概要の27ページの表の部分のところの見直しの結果は、先ほど、いろいろなページをご指摘ありましたけれども、最終的にはこちらのほうに連携しているという

ことの中で、これだと、せつかくこれとこれの資料が連携できるような。展開のほうはかなりこのボリュームがあるので、これだけで完結すると思うんですけども、最終的にはやはり予算というものがより重要視されたときに、予算案概要のほうからも成果の読み取りができるような工夫があるともっといいのかなと感じました。

○事務局 ありがとうございます。

○委員長 先生、何か、全体としてコメントいかがでしょうか。

○委員 今、データを見たので、まだ十分理解できていないところがあるんですけども。

外部評価の目的が何だったのかなというのがちょっと。要は、最終的には予算のベースでのご報告になっているので、予算が効果的に使われればというのでは、そのメリハリをつける。先ほど、委員長がおっしゃいましたけれども、増えたらいいのか、減ったらいいのかというのは単純には言えない部分があって、事業ごとにやっていく点はすごく理解ができるんですけど、単に予算ベースでこうなったから、外部評価の意味がありましたみたいなどころで終わるのではなくて、外部評価のコメントというのは、金額では出ない施策の見直しの部分で提言している部分も結構あると思うので、そういう部分がどういうふうに関係サイクルの中で反映されたのかというのが、今日のこの資料ではなかなか見えない部分があるので、その部分がどうなっているのかというのを。

○事務局 例えば、行政評価結果でわかりやすいのは、ある意味、予算額というのが一番わかりやすいと思うんですけども、先生方からいただいたご意見というのは必ずしも予算ベースの話だけではなくて、いろいろあると思うんですが、この二次評価なりをまた各事業課のほうに返すことによって、各事業課のほうで、今度、27年度評価をやってもらうわけですけども、その場合、やはり今回やっていただいた評価というものはどうだったかというのを、当然、考えているというか、根づいていると思うんですね。

全く、毎年、1年1年切り離して行政評価って、単に次だけやればいいですよということではなくて、先生方からいただいたご意見は、ある意味、積み重ねていくことによって事業の執行体制だとか、予算もそうかもしれませんけど、そういった形で蓄積されていくことによって変えていくということが一つの評価なのかなと思っています。

例えば、27年度外部評価であったものが、28年度、今度対象とはなりませんけれども、その部分については、今後、我々事務局がちゃんと捕捉をしていって、外部評価がどういうふうに変わっていったのかというのは、これから、我々が追っていきなきゃいけない部分なのかなと思うんです。

○委員 外部評価で指摘した、例えば、計画とかの部分でどう反映されているのかという点をぜひフォローしていただいて、その部分が、多分、次の外部評価のときの計画とか、予算とか、目標設定に反映されているはずなので、そこはぜひ次の評価のときに拝見できればと思います。

○委員 今回の関連ですけれども、基本的には、これ、予算というのはどうしても金額的な、金銭ベースになりますけれども、決算のときには決算の金額的なものと別に、決算書という事業の内容もあるかと思imasので、そのときには金額ベースではない事業の内容についても織り込みということはできるのかなとは思いました。

○委員長 あと、先生、いかがですか。全体的な話になりますけど、何かコメント、ご意見があれば。

○委員 お話でありました、これ、金額ベースで、さっき、施策別でというところで、少し特徴があるんじゃないかということは申し上げたんですけれども、全体としては、おそらくほかの先生方も、あるいは2年前の外部評価委員会の最後のところでも出ていたかもしれないんですけれども、必ずしも全体の1%ぐらいのところの影響をどうだということを考えていくと、それも含めて、多分、金額だけの話ではないだろうというのは何となく評価をする側の全体の印象としてはある中で、仕事の仕方が例えばどう変わっていったのかとか、事業の手法自体がどういう形で組みかわっていったのかということと合わせて見ることができると、やはり評価する狙いがほんとうに当たっていたのかとか、あるいは実際、評価したインパクトがどういうふうに戻ってきたのかということとをさらによく理解できるという側面はあります。

先ほど、先生がおっしゃったような形で、決算のところはどう変わったのかというところを見るのは一つの方法としてはあると思うんですけれども、それを含めて、さらに情報と言いますか、共有するようなことができると、また、仕組みとして深まっていくのではないかなという印象はあります。

○委員長 それは大切ですね。先生、何か全体的に。

○委員 私も同じような意見ですが、数字として見ようと思うと、どうしても箱物関係になると、数字としては大きくあらわれるかと思うんですね。影響がたくさんありました、こんなに見直しましたというようなものだけではなくて、評価のときにコメントをたくさん出している部分があると思うんですが、その部分に関してのフォローというのが、大きな意味があるような気がいたします。そこをやりっ放しにしないというようなことがやっ

ぱり重要なのではないかと。

○委員長　ありがとうございます。先生、何か全体まとめるようなことをお願いします。

○委員　その意味で、これ、資料3の1ページも2ページも、結局、ゼロというやつ、これ、我々にとっては別に何てことはないんですけど、これ、そもそもどこへお出しになるか、出さないならいいんですけど、ゼロというのは意味を説明しなきゃならないですよね。ですので、結局、事業レベルまで落とし込んで何か、工夫などできるもので、数えられるのはこれだったというわけですね。

でも、委員の皆さんからお話があったように、これこれ、これこれの工夫をしましたというのもあり得るわけで、おそらく、国の場合も私の理解ではそうですが、財務省も金額に反映できるものは一生懸命拾うわけですが、実は、ご指摘のように、この辺、工夫したとか、おまけに指定管理者なども金額以上のことを求めて、制度上もそういうことですから、結局、どのような成果が期待されるかなんてことも説明しなきゃならないですね。

その意味では、おそらく、数の問題でゼロという話もありますし、実はその関係で反映事業割合というのもどのように数字をお使いになって、どのように外部あるいは議員さんを説得なさるのかということ、逆に言うと、これ、どういう数字ならいいかということがあるかということですよ。別にないですよ。

○事務局　ないですね。

○委員　実は反映があった、丸、なかった、バツはまずいですけど、対象外とか、そのようなことの説明でもいいのかなという感じがいたします。

というので、我々に対する説明自体も、対象になった事業があるかないかというのは、結局、偶然ではありませんけれども、何らか、すぐできるものがこれだけだったというわけですよ。中長期でこれ、3年かけてやっていきますけれども、その間ずっと、最初の年に当たったところは考え続けていくわけ。実は、長期計画の間中考えるわけですよ。それについて我々は、外部評価としてはこういう方向、今回見たのはこういうことであって、それはしかし、実際、先生方のご意見としては、理念的にはずっと考えてもらわなきゃいけないことだということになりますので。

懇切にすぐっていただきましたけれども、結構、内部的にも。これ、内部への刺激としてあると思います。ただ、ゼロというのがある。外向けにはどうかという問題がどうもありそう。冷やかしているわけではないですけど、そういうふうにとめました。

○委員　よろしいですか。

○委員長 どうぞ。

○委員 今回の資料3で思ったんですけども、一番左の事業数のところに、括弧をして、外部評価をした事業をこの括弧書きで入れていただければ、反映事業数の括弧書きで外部事業になりますので、外部事業を幾つやって、反映が幾つ、結果的に、例えば、事業数がゼロであれば、当然、反映数もゼロに当たり前になるかと思うんですけども、こちらのほうの括弧書きに入れることによって、この反映数の意味が多少出てくるのかなと思いました。

○事務局 基本的には、28年度の事業数、例えば、施策1であれば、この施策1にぶら下がっている事業は21ありますよ、施策1の外部評価をやっていただいたときには、基本的にはこの21事業について見ていただいたという認識でありますので、ですので、そういう意味ではイコールになると思います。

○委員 うまく切り分けが難しい部分があると思います。

○事務局 あと、実際の外部評価をしていただいたときも、細かい事業レベルなのか、施策レベルの議論なのかということで、やっぱりかなり難しいところはあると思うんですね。

○委員 今日のところはいずれにしても、これが我々の言いつ放しではなくて、ちゃんと予算に反映されて、曲がりなりにもPDCAは回していますよということです。それをきちっと確認して、また、次の6月か7月に入りましょうと。これから後、予定の話がありますけれども、そういうことだと理解いたしますが。

やっぱりこういう外部評価というのは一体何のために行われるかということを、最終確認、きちっと確認をしておいて、常に原点に立ち返る。

多分、おそらく、一つはこの施策ってほんとうにやる必要があるのかということもありますよね。あるいは、区の全体の施策の中で、これやめてこっちとりましょうというような、そういう取捨選択とか優先順位の問題がありますね。そういうふうに、そもそもやるのかやらないのかという議論もあるでしょうし。

同じやるんだったら、やっぱり行政サービスの質を上げましょうという、もっと水準を上げていこうじゃないかという議論もありますし、一方で、もっと予算の投入とか、人的な投入とか、いわゆるリソースの投入、もっと節約することができるじゃないですかという。まあ、民間化とかもそうかもしれませんね。

それから、あとやり方、方法をもう少し工夫できるんじゃないでしょうか。

そういうふうに、狙うべき質の問題と、それから効率化の問題と、それから方法の問題

とというのが3つぐらいあると。そのことの上位に、そもそもやるのかやらないのか、優先順位としてどうなのか。

この4つぐらいを、おそらく区の中でも評価をし、我々は外部の目でそれを評価すると。そうすると、それは、必ずしも予算だけではなくて、この施策の中に反映されているはず。それは、まさにPDCAで回っている姿を、ほんとうはもうちょっと見えるようにしたいけれども、今回はとりあえず予算のところを話をしていただいたと、こういうことでしょうね。

あとはまた、今後、今年度以降、そういう形でできた以降、今日、先生方が言われたようなことを含めて、全体の外部評価がこういうふうに戻っているんですよということが見えるようなことを、来年度以降でしょうか、また少しご配慮いただくということでよろしいかなと思います。

**○委員長** よろしゅうございますでしょうか。

それでは、この件についてはほかに何かよろしいでしょうか。貴重なご意見、どうもありがとうございました。

それでは、最初の議案につきましてはここで終わります、次に28年度の外部評価委員会スケジュールについてご説明をお願いしたいと思います。

**○事務局** それでは、資料4をお願いいたします。平成28年度、来年度の行政評価スケジュール（案）でございます。こちらにつきましては、外部評価を含みます、行政評価全体の現時点でのスケジュール（案）となっております。

行政評価のスケジュールとしましては、外部評価を含めまして、本年度と基本的には同様のスケジュールを予定してございます。

表の一番上の行が、外部評価のスケジュールとなっておりますけれども、5月から6月にかけて、また外部評価モニターの募集、決定を行います。なお、モニターの募集につきましては、本年と同様に無作為抽出した区民の方2,000人にご案内をお送りいたしまして、モニターとして参加いただける方を募る予定でございます。なお、今年度につきましては、2,000人のうち、お申込みいただいた方は103名で、全員の方にモニターになっていただきました。

委員会につきましては、6月下旬に第1回を開催させていただきまして、28年度の委員会運営などについてお諮りする予定となっております。

その後、委員の皆様方におかれましてはまた2班に分かれていただきまして、各施策の

関係課とのヒアリングを7月に行っていただきます。

なお、ご評価いただきます施策につきましては、今後、事務局のほうで決定をさせていただきますけれども、施策数といたしましては、今年度と同様、各班6施策といたしまして、計3回のヒアリングをお願いするところでございます。

ヒアリングが終わりましたら、正副委員長と調整の上、外部評価結果報告書（案）を作成いたしまして、8月下旬の委員会で委員の皆様にご提示させていただきます。

なお、取りまとめました報告書につきましては、今年度同様、副区長を委員長といたしまして、全ての部長が出席する会議体におきまして、その内容についてご報告をさせていただくとともに、管理職だけではなく、全職員が報告書を読むように周知を徹底いたします。

その後、区では、報告書を踏まえまして区の最終評価であります二次評価を行いまして、予算編成を通じて評価結果を可能な限り予算へ反映してまいります。

当初予算案につきましては2月にまとまりますので、3月にまた委員会を開催させていただきます。本日のような形で、評価結果を踏まえた予算案等について、ご説明をさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、ご多忙のところ恐縮でございますが、関係課とのヒアリング、また、委員会等へのご出席についてご配慮いただければと思います。

簡単ですが、こちらは以上でございます。

○委員 これ、第1回、委員の委嘱というのがありますが、あれは3年間じゃなかったでしたっけ。それとも毎年度、委嘱されるんですしたっけ。

○事務局 ちょっと確認します。

○委員 たしか、兼業届け3年で出したような気がしたんです。どっちでしょう。

○事務局 済みません、確認させてください。

○委員 いいです、いいです。大した話じゃない。

だから、1回目は、もし委嘱という行為がなくても1回目は。

○事務局 ガイダンス。

○委員 ガイダンスがあるから開くわけですね。

○事務局 また全体像等をお話しさせていただく。

○委員 そうすると、1回目開いて、あと3回のヒアリングがあつて、まとめて計5回、こちらに来ればよろしい。

○事務局 はい。

○委員 日程調整をこれからするんですって。

○事務局 そうです。今、委員の皆様にお配りをして、集計させていただいて、ある程度固まりましたら、またご提示をします。

○委員 夜とか土曜日とかいうのは、実際どうでしたか。

○事務局 結局、傍聴の方が、実際はあまりお見えにならなかったというのが事実でして、平日の夜にやっても、土日にやっても、平日の日中にやってもあまりというところがあったんです。

ただ、あまり偏るのもどうかと思いますので、その辺を踏まえて考えさせていただければと思っています。

○委員 今、どうやって投げていらっしゃるんですか。予定はまだ投げていなかったでしたっけ。

○事務局 投げてはいるんです。今、委員の方々からご回答いただいている途中でございます。

○委員長 そういうことですね。何かここであれですか、昼かとか夜かとか、大まかなところの先生方の意向を聞いておく必要はないですか。

○事務局 今、個別にメールいただいておりますので、特にこの場では。

○委員長 よろしいですか。

○事務局 はい。何か逆に先生方のほうでこれはというのがあれば言っていただければあれですけど。

○委員長 特に何かありますか。ご希望とか。それぞれ、個別には出していただいて。

このスケジュールにつきまして、何かご質問とかよろしゅうございますでしょうか。

○委員 スケジュールについては特になのですが、進め方というか、去年の経験で、幾つかよろしければ。

○委員長 どうぞ。

では、スケジュールはこの件ということで、了承と。

どうぞ。

○委員 既に様式等は決まって、ずっと気になっているのは、外部モニターの方、手を挙げてきていただいて、ようわからなかったという形でお帰りになるというのは一番まずいと思うんですよね。

ちょっと前回も申し上げたような気もするんですけど、結局の話、これの反映は外部モニターの方については参考ということで、評決じゃないんですけど、A、B、Cが出ているわけですね。

でも、実は、おそらく原課の方々は、「あ、こんなことを区民の皆さん、考えているんだ」ということを、十数人おられる方の発言も記録に残っていますので、特に、評価書をお認めいただいた旨が出ていますので、あれがすごく意味があって、そのことも踏まえて、委員長の総評ではニーズの反映等々、お書きいただいているんですね。

その意味から言うと、実は、様式は変えられないと思うんですけども、担当部長さんからの冒頭説明では、まさに今回の外部評価報告書の総評で委員長にお書きいただいた最初の3項目みたいなので、政策の構造を明らかにせよということ、それから、指標の根拠を明らかにせよということ等々あるんですね。

特に、外部の人が困っていたと思われるのは、我々は「施策」と言うところなんですけど、外部の人は施策、関係ないですね。事業は関係あるんですね。だから、結局、ここでは何が議論されているかのイメージをですね。

我々がもちろん議論を部長さんとやる中で明らかにしていくという手もあるんですけど、結構、まどろっこしくてですね。

施策の目指す姿、実現するための取り組みのところで、おまけに計画ベースの主要な事業ではなくて、事業一覧も、結局、我々には参考資料でいただいているんですが。あれは、維持とか何か、ある意味、区民には余計なことが書いてあって。事業の名前と、一番右の欄にあった事業の概要を配っちゃって、このようなことをやっていますと言って、冒頭に説明していただくと、結構議論の時間が節約できるし、区民の皆さんも、「ああ、こういうことだったよね」、「ああ、これだ、これだ」というのでわかるのかなというのが一つです。

それから、これは区民の皆さんにどこまでお見せするかどうかですけど、委員長の総評にありましたように、目標値についての根拠は、やっぱり事前にお示しいただいたほうがよくて、やっぱり我々の質問内容も「根拠」とかいうふうになって、それも区民の皆さんからするとどうでもいいじゃないですけど、結構、役所の皆さんが不利になっちゃうみたいなことが。それもあまり質問したくないんです。

そういうようなことで、ちょっと、様式変えられないけど、説明の振りつけについては、何か工夫いただくと、せつかく来ていただいているモニターの皆さんも、俺も私も参加し

たねということで、これについて言いたかったんだということ、これについて言いますということも、事業名が出ているとできると思います。

だから、施策評価であるということに反しない限りでということですが、実は、区民の皆さんに意見を聞く、この機会は重要で、新しい基軸で始めているわけですから、そのところをちょっと工夫があると、せっかくのことがよりプラスに働くのではないかという感想を持っております。

○事務局　確かに最初、実は、事務局のほうで施策とはこういうものですよという説明はしていたんですけど、それぞれの施策の内容については全然説明していなかったの、いわゆる計画の体系についてはお話をしていたんですけども、各事業の中についてはお話をしていなかったの、今おっしゃったように、場合によって、最初のヒアリングに入った冒頭で、事業の概要と指標の設定根拠ぐらいは、まず、所管の部長から述べてもらったほうが。

○委員　いいと思います。細かく説明しなくていいんですよ。「こんな事業があります、様子、おわかりですよ」と、「わかってくれ」と言えばいいんだと思いますけど。大体わかりますよね。そんな珍妙な名前の事業、ないですね。

あまり細かい説明ではなくて、こういう「お手元の事業概要のとおりです」と言ってもらうだけで全然違うと思います。それで済ませればいい。

○委員　そうですね。その辺はやっぱりモニター、非常に、僕らにとっても貴重だった。やっぱり、区側からの説明だけじゃなくて、モニターの人たちが、ずっとまた違う観点で話をしてくれたりというのは評価にとっても非常にありがたかったし、また、区民に行政を理解いただく非常にいいチャンスですからね。

○委員　結局、区民の皆さんが部長さんと対話できる瞬間を、我々が何か媒介していたような気がするんですね。そういう感想をお書きになっているモニターの方、相当おられましたよね。区はこんなこと考えているのかという。部長さんがしゃべっているわけですから。そんなの、議会へ行かなきゃ聞けない。議会の傍聴行かなくても、とても貴重なことが、今年、起きていたような気がするんです。

○委員　かつ、発言できちゃうわけですからね。

○委員　そうですね。

○事務局　ちょっと検討させていただいて。

○委員長　ぜひ、今の大事なところなので。

そのほか、議案以外で何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後になりますけど、部長からご挨拶をお願いしたいと思います。

**○事務局** 待っていましたと言ったら怒られますけど、今のお話を聞いていて。今日は、座ったままご挨拶させていただきます。済みません。

吉武委員長、塚本副委員長をはじめ、委員の皆様、ほんとうに1年間、ありがとうございました。また引き続き、よろしくお願いをしたいと思っております。

今年度、ほんとうに今日、お会いできるというところで、報告書を読み直してみたり、夏の暑いときのことを思い出したんですけれども、新しいところでスタートをさせていただきました。

行政評価、実は私も課長のときからかかわってまいりまして、何とも言えず、決めがないんですけれども、じゃあどうするかと悩んでまいりました。

私、今、思っている結論は、今、申し上げた予算への反映みたいな、効率的な行政運営だということなのかと思うという。

私はもう一つあって、それを当然とするこの組織ですかね。要するに、人づくりではなくて、そういう組織にしていくということがこの行政評価の、一番の目的、目標であると私は思っております。

資料3で、これ、施策のご評価をいただいている中で、事業数、予算への反映ということで、私、これ、決して少なくないと思っております。報告の仕方がもう一工夫あるといえば、施策の評価は先生方からいただいたんですから、実は、いただいた評価を二次評価に私ども、まじめに反映をいたしまして、8月から始まった、例えば、予算ですね。資料3でご確認いただいて、私は、今日、正直申し上げて、今、この9という数字は気にされるだろうなと思ったんですけれども、例えば、反映事業数でございますが、事業自体を見直して、組みかえていこうという試み、例えば、今年の予算編成方針にも入れまして、イニシアティブ予算等々いたしましたところでは、みずからですね。

要するに、ご評価いただいた施策ではなく、それ以外のところでも自分から、例えば、長年の課題でございました敬老祝い金、要するに福祉をどういうふうに体系化するかということ、ございましたけれども、そういった中で、自発的に各部が行ってきたというところがございまして、それを、今日、細かくご報告できないんですが、そういった中では、委員長からご指摘のあった組み替えなり、構造を変えていくんだということについて、私はもう一度、この外部評価、それから区民のモニターを入れた中では、スタートで

きているのではないかなということを思って、より私ども、執行する事務局がしっかりつながりと言うんですかね、きちっとそれを流れにしていく、もしくは意識した予算編成もそうですし、計画もそうですし、やってまいろうとさせていただきます。

ただ、うちの区が、きつきつの財政運営状況の中で、この行政評価をして、事業見直しだ、何だとなったときに、かなり結果は、事業ベースで見れば違うと思うんですけれども、正直申し上げて、今、多分、もう少しは、財政状況は悪くはないんですね。基本的に、人口、増えていますので、税収は上がってきてしまうというのが、悲しいかな。

ですけれども、今、逆に、課長たちと話しておりますのは、例えば、政治的な思考で緩めてしまって、いいわ、いいわでお金使っちゃうというのは絶対危なくて、施策なり事業選択していく場合には、先を見て選んでいくのはまさに今だなと思っている。緩めたところで、5年後、10年後、もしくは10年、20年たったときに、人口減になったときに、もうひどいことが起こってしまうということについてはわかっております。

逆に、その中でこういったご評価をいただいております、何が、要するに区民感覚なり、外部から見たときに正しいのか、もしくは求められているかについては、常に私ども、行政というのは中に入ってしまうと、やっていることだけに満足してしまいますので、確実に、特に部長級、課長級が、厳しいご評価なり、もしくは応援をいただくことがとても大事だと、今、大事だと思っています。お金のない時期にご評価いただくのではなく、今この時期に、間違えないようにきちっとご評価いただくことが大事だし、こういうサイクルを持っていることについては非常に価値があると思っていますし、生かさなきゃいけないと思っています。

また、来年、再来年と続いてまいります。こういった中の江東区でございますけれども、特に、私、ありがたいのは、ご評価いただいた後に、各部長なり課長なりに、「頑張ってください」というお声を委員の方からかけていただくというのは、なかなか私ども、この間の行政評価、厳しいものですが。

要するに、評価のあり方や評価の中身、評価はどういうものかということについて、先ほど申し上げた、私たちがより、体得することが大事な中では、ああいったお声がけもありがたいなど、私、思っています。

用意していただいたものはあったんですけれども、今、前段のご議論を聞いていてと思いました。

もう一つ、事業ベースでの報告だけではなくて、いわゆるいただいたご評価を、例えば、

事務改善なり、もしくは、組織なりあるんです。それについて、うまくご報告できるような形というのは宿題としていただいて帰りたいと思ってございます。

ほんとうにありがとうございました。また引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございました。これだけ語っていただいてありがとうございます。

最後、企画課長が挨拶するんですけども、せっかく財政課長もいますから、何か一言どうぞ。

○事務局 予算編成、今年、やらせていただいて、やっぱりなかなか、今、部長が申し上げたとおり、かなり財源的には潤沢なんですね。

そういった中でどのような見直し、先を見て見直しをして、各所管に見直しの要求を出してもらうかというのと、あとは、これからの先を見た、打って出るような事業を出してもらうかというので、今回、予算編成は少し、そういうスクラップ・アンド・ビルドみたいな形で予算編成方針に当たって、今回、28年度予算は編成したところなんですね。

その中で、予算にあまり反映されない部分でも、やり方、手法を変えるという部分が結構出てきた部分もあって、それは多分、外部評価なり、あとは二次評価の中での各部署、部なりに考えてやってきたことなので、予算だけではなくて、それ以外の部分での施策の持っていく方という部分では、かなりこの評価というのは大きく影響したのかなと思っていきますので、引き続き、今年度についても、また、やっていきたいなと思っていきますので、よろしく願いします。

○委員長 お疲れさまです。計画推進担当課長も、せっかくですから、一言。

○事務局 私は実は国の機関で、財務省から出向させていただいているんですけども、財務省で独立行政法人の評価委員会の事務局をやっていたんですが、そのときのと今回の評価を比べると、かなり、評価の意義とか位置づけとかいうのを説明者側に気づかせていただいているというのが、今回、非常に意味があったなと思っております。

そういう意味でいくと、今回の外部評価というのは、私も同席という感じなんですけれども、非常に勉強になりましたし、こういったやりとりというのをぜひまた、さらに活用させていただきたいなと思ってございます。

○委員長 どうもありがとうございます。最後は企画課長から。

○事務局 いえ。もう部長なり課長さんのほうで話がありましたので。

来年度の外部評価委員会でございますけれども、引き続き先生方をお願いしたいと思ってございますので、どうぞよろしく願いをいたします。

先ほども申し上げましたけれども、来年度の日程につきましては、また決まり次第、ご連絡をさせていただきます。

以上でございます。ありがとうございました。

○委員長　　どうもありがとうございました。

午後 8時 5分 閉会